「私の職場体験」

育成会だより

第５０号
令和６年２月20日

豊城中学校区
青少年健全育成会
（事務局）
豊橋市立豊城中学校
豊橋市今橋町２－１
電話 54－1275
FAX 57－1964

明るい家庭づくり壁新聞

会長　小山勝信

寒さがいくらか緩み、春の息吹を感じる頃となりました。皆様方には、日頃より青少年健全育成活動にご尽力いただいており、深く感謝申し上げます。

豊橋市は、家庭の大切さに気づき明るい家庭について理解と関心を深めてもらうことを目的に、「明るい家庭づくり作文・壁新聞」を毎年募集しています。昨年十月十一日に壁新聞の部の審査があり、審査員として参加しました。壁新聞の審査員を務めて10年目になります。それ以前は「夏休み親と子の新聞づくり教室」を開催していて、「明るい家庭づくり壁新聞」との関わりは、25年にもなります。

壁新聞の部には、１３４点の作品が応募されました。市役所13階の講堂に、全作品を並べた光景は圧巻でした。どの新聞も、その家庭の良さや家族のふれあいの様子が発信されていました。家族が協力して時間をかけて作成した新聞ばかりで、「できれば一つ一つの作品に賞を贈りたい」と、他の二名の審査員と話しながら審査しました。

家庭は、子ども達が健やかに生きていくための基礎となる大切な場所です。家庭に寄り添い、家庭と学校と地域がより連携を深め、青少年健全育成活動を進めていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

雪が解けたら何になる？

豊城中学校　校長　河合成始

> ある小学校の先生が子どもたちに「雪が解けたら何になる？」と問いかけました。多くの子どもたちは「水になる」と答えた中で、たった一人だけ「春になる」と答えた子がいました。（中略）「春になる」と答えた子には、寒い冬から花のつぼみが開く、待ちに待った春が来るということを感じるからこそ、紛れもない自分が鮮やかに存在している。理論や知識だけで教育しようとするから、教育が歪んでしまうのです。【新聞コラムより】

昨今、居ながらにして膨大な情報を入手でき、様々な難題までＡＩがすぐに解決してくれる時代になりました。しかし、その利便性に浸り過ぎることで、他者を思いやる心や想像力など、私たちが心豊かに生きていく上で大切にしたい感性が薄れてしまうのではないかと危惧しています。

加速度的に進むデジタル時代を生きる子どもたちには、敢えてアナログ的な余地を意識した生活を送ってほしいと願っています。紙の本や新聞を読むことは、想像する余地を広げ脳の力を引き出すことにもつながるそうです。情報を一つの道具として扱い活用する私たちは、多種多様な『人・もの・こと』との関わりを通して、感性を磨き続ける必要があるのではないでしょうか。

地域の皆様に支えられた教育活動

松葉小

働くってどんなことかな
～5年　夢work体験学習より～

五年生は、「夢workプロジェクト」としてキャリア教育を実施しています。その活動の一つとして、十月十三日に夢work体験を実施しました。この夢work体験は、子どもたちが地域にある事業所を訪問し、仕事の手伝いをさせていただきながら、働くということや、将来なりたい自分について、考えを深めることをねらいとしています。

今回は、コロナ禍を挟んで実に四年ぶりの実施となりましたが、どの事業所のかたも、「子どもたちのためになるなら」と、快く受け入れてくださいました。子どもたちは、数名単位で自らお願いしておいた事業所を訪問しました。

体験を終え、学校に戻ると、疲れた中にも充実感に満ちた様子が見られました。

《作業手順に耳を傾ける様子》

【子どもの感想】

・働くうえで大切なことは、思っていたよりもたくさんありました。そのたくさんの大切なことを今のうちに当たり前にしておき、仕事をやるときも忘れずにやりたいです。

・私たちは、一日やっただけで、すごく疲れたけど、そのすごく疲れる仕事を毎日続けられる店員さんはすごいと思いました。このようにたいへんなことでもあきらめずにやる気持ちを大切にこれからの学校生活をすごしていきたいです。

《教わった手順で作業する様子》

【事業所のかたの感想】

・子どもたちは、とても礼儀正しいと思いました。気づいたことを素直に言ってくれました。私どもも勉強になりました。

・地域の関わりは重要ですので子どもたちに社会の仕組みを知っていただくことは勉強になると思います。

・真剣に話を聞き、リサイクルという仕事に楽しく向き合えたことは大変よかったと思います。いろいろなことを学び、少しでも子供たちの成長のお手伝いができればと思います。

なかよしフェスティバル

六月に行われた「なかよしフェスティバル」は、異学年、異学級をはじめとしたさまざまな児童との関わりから、人間関係の形成をねらったものです。また、児童が主体となって活動を計画することで、他者と協働し、よりよい学校生活をつくろうとする態度を養いました。

当日は、四年生以上の各学級が複数のブースを設け、前半後半に分かれてゲームを楽しみました。低学年は、上級生が工夫を凝らして準備したゲームに挑戦しました。ゲームのルールや説明の仕方など、低学年の子にもわかりやすいものをつくっている様子に思いやりの心が感じられました。

《ゲームの説明と中をのぞく様子》

自治会と共に行う あいさつ運動

コロナ禍の大きな声を出すことが制限された中で過ごしてきた子どもたちにとって、校区のかたがたの積極的な挨拶の声は非常にありがたいです。高学年の子どもたちも、「大人に負けずに大きな声であいさつすることで、低学年の見本になるんだ」と張り切っています。校区のかたの力で子どもたちの背中を押していただいています。

《あいさつ運動の様子》

未来を引き継ぐ 百五十周年から二百周年へ

八町小

八町の新しい歴史を作り上げていく子どもたち

十一月十八日（土）に「創立百五十周年記念式典」をとり行いました。記念事業を行うにあたり、同窓会、地域の方より多くのご支援・ご協力をいただいたこと、この場を借りてお礼申しあげます。

記念事業には、子どもたちも多くの部分で関わらせていただきました。

まずは、記念誌づくりです。「子どもたちが見た八町百五十年」のページは昨年度の五・六年生が、創立から現在までの百五十年の歴史を学び、現地調査やインタビューをし、タブレット端末等を使って手分けして書き上げました。

次に、全校による「校歌斉唱」の撮影です。コロナウイルス感染症対策のため、全校が一堂に会して歌を歌うのは実に四年ぶりでした。全校で歌うことのできるうれしさからか、子どもたちの元気いっぱいの歌声は、まさに二百年まで届きそうな勢いでした。この映像は記念ＤＶＤに収録され、式典でも披露されました。

最後に、六年生による式典での「八町ソーラン」の演舞です。一人一人の力強い踊りは、休み時間にも積極的に練習した成果であり、また、息の合ったフォーメーションは六年生のチームワークのよさが表れていました。式典に参加された同窓会や地域の皆様からもたくさんの称賛をいただきました。

今回の記念事業は、「子どもが主役」であり、「子どもの記憶に残るもの」にしようと、実行委員会の方々が共通の思いをもって、当初から計画をしてくださいました。式典の最後に行われたバルーンリリースでは、全校児童一人一人が風船に「二百周年への思い」をつけて、大空に飛ばしました。今回百五十周年記念事業に関わった子どもたちが、八町校区の伝統と未来を引き継ぎ、五十年後の二百周年記念に関わってくれることを願ってやみません。

記念誌づくりのための取材

200周年まで届け歌声！

6年生によるソーランの演舞

思いをのせた風船を飛ばしました

コミュニティ・スクール 八町小

コミュニティ・スクールとは、「地域と共にある学校」のことです。簡単に言うと「地域の人は、みんな先生」という合い言葉のもと、子どもたちが、より多様な人々から学んだり、交流したりするなど、子どもたちの生きる力やコミュニケーション力の向上をねらいとしたものです。

また、これまでとの違いは、「スクール・コミュニティ」として、学校をプラットフォームとして活動・交流することで、地域の絆を広げ、地域づくりにもなるといった意味もあります。

これまでも八町小では自治会・ＰＴＡをはじめ多くの各種団体や個人が子どもたちのためにさまざまな協力や支援をしています。今年もたくさんの方々にご支援をいただきました。今後も、コーディネーターを中心に、学校教育活動や地域活動にご支援いただけるよう、ご協力をお願いいたします。

今年からはじまった「八町サマーチャレンジ」地域の人みんなが先生です

「１年もちつき会」
老人クラブの方が先生です

「３年農業体験」
農家の方が先生です

地域や人と関わり 豊かに学ぶ豊城中

鬼のお面づくり

二年生は「鬼祭」について学びました。竹とんぼ会の皆さんを講師に招き、夏休みには希望者を募って、鬼面の制作を行いました。赤鬼、青鬼、天狗、鍾馗、おかめ、それぞれの型をもとに作成した面でしたが、鼻の形や大きさ、色づかいなどには生徒一人一人の個性が表れ、味わい深い作品が完成しました。伝統工芸ならではの手作業での作成工程に、難しさを感じるとともに、歴史を次世代に繋いでいくことの大変さを学びました。

また十一月には、安久美神戸神明社より平石様、豊橋市美術博物館より久住様を講師にお招きし、鬼祭講座を行いました。クイズやインタビューを通して、身近な地域に残っている祭り文化のおもしろさや価値に気づかされました。

地域の方の努力によって、伝統文化が継承されていることを、このような機会を通して改めて知ることができました。講師の方々、ありがとうございました。

吉田文楽体験

一年生の吉田文楽体験学習では、講師四名をお招きしました。人形浄瑠璃の基本や吉田文楽の歴史的背景を学んだ後、人形を操る体験、床本味線（ゆかほん）とよばれる台本を見ながら三の節に合わせてセリフを読む体験をしました。

講話では、吉田文楽と豊城地区の関わりを具体的に教えていただくことができました。人形を操るときには、実際の文楽のように三人一組で一体の人形を動かしてみたことで、三業一体という日本の伝統的な文化にふれることができました。また、セリフを声にしてみることで、日本の伝統の一端にふれることができました。

「実際の人形に触ったら、人形に命を吹き込むことが簡単ではないとよくわかった」「貴重な文化であることが分かったことで、人形浄瑠璃部の一員であることに誇りをもちたい」など、学習を通して、私たちの地域に残る吉田文楽が世界に誇れるすばらしい日本文化の一つであることが実感できました。

祇園祭感謝状

今年度、待ちに待った祇園祭の打ち上げ花火が行われました。七年前から本校で取り組んできた祇園祭ボランティアを三年生に呼びかけたところ、六十名を超える応募がありました。当日は精いっぱい、来場客に袋を渡しゴミの持ち帰りを呼びかけました。祇園祭の花火は、雄大で美しく、私たちの心まで明るくなりました。

後日、5 30運動環境協議会から、本校の取り組みに対して、感謝状をいただきました。

ボランティアの輪

八町歩道橋の工事に携わるショーボンド建設から、社会貢献の依頼がありました。そこで、テニスコートの整備をお願いできることになりました。草取りは学校で行うことになり、ソフトテニス部のリーダーたちが、朝の草取りボランティアをスタートさせました。きれいなコートで練習したいという思いで始まったボランティアの輪は、多くの生徒たちに広がっていきました。自分たちの手でよりよい環境をつくる経験を通して、自立への一歩を実感できていただいたショーボンド建設への感謝の気持ちを忘れず、美しくなったコートで練習に励んでいます。

いのちの講話

「豊橋・学校いのちの日」に関する取り組みとして、六月十九日(月)にいのちの集会を行いました。今年は、豊橋空襲を語りつぐ会の羽田光江氏から、子どもの頃に豊城校区の魚町で空襲にあった体験や戦時中の話を聴くことができました。焼夷弾が落ちてくるなか、水で濡らした布団にくるまって耐えた体験、戦争で亡くなられた方々を市電通りに並んで迎えた体験など、過去にこの地域でそのような悲惨なできごとがあったことを知りました。平和な現代日本に暮らす皆さんは、いのちを大切にして自分のできることを精いっぱいしていってほしいという言葉をいただきました。

人間力を高めよう

副会長　吉見正樹

今の世の中、デジタル化社会が急速に進みあらゆる物事が数値化され、効率よく処理されています。しかし、数値化されないアナログ的なものにこそ本当に底力があり、大切なものがあると私は思っています。

学校での勉強ではタブレット等で効率よく進めることが出来る教科があると思いますが、大半の教科では教科書を脳に覚えさせる必要が出てきます。人間の脳は「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」というエピソードとして記憶するといわれています。皆さんも世の中に出れば人間としての本当のコミュニケーション能力が必要となります。それは人工知能では補えません。人間は目で見て、頭で考え・想像し、お互いの言葉で表情を見て会話することにより人としての能力を高めることができます。今後もデジタル型社会は進んで行くと思いますが、皆さんには人間力を高めて生きることを選んでもらいたいと思います。